

# B-58 おむつの洗浄性について(才1報)

日本女大家政 〇増子富美 中西茂子 綿久寝具社 村田士郎  
北里大衛生 富岡睦子 土屋隆俊 奥田舜治 川西康博 阿部芳雄

目的 現在、人口の高齢化が進んでいく状況で、今後病院高齢者用貸おむつの需要は増加すると考えられる。今回は、病院から回収後洗たく、乾燥を終わり貸出用として包装されたおむつの中から無作為に取り出したおむつについて汚染物の残留状態を、化学的、細菌学的な面から検討した。

方法 試料として綿100% 平織(晒, ネル) 綾織α布(0.3mm)を使用した。パークロルエチレン(PCR)→メタノール(MeOH)→水の順で抽出し、それぞれ残渣について検討した。洗たく前後の布表面の状態を走査型電子顕微鏡で観察し、同時に色差も測定した。一方、Tween-80 加生理食塩液で抽出した菌について一般生菌数、大腸菌、緑膿菌、アドワ球菌群数等を最確数法、混釈平板法、マンニトウ食塩、NAC培地表面塗布法で測定した。

結果 おむつ1枚当たりの各抽出液残渣の量は、晒、綾織、ネルの順に多くなり、織物組織により保存量に差があることが認められた。付着率からみるといわずとも、PCR抽出物0.3%、MeOH抽出物0.3%、水抽出物0.2%であり、織物組織には無関係であることが判明した。各抽出物質については、ステレコピリンの有機溶媒中に、硝酸塩、亜硝酸塩の水抽出液に認められた。その他の脂質、塩類、洗剤構成物質の存在については検討中である。一方、生菌数も織物組織よりむしろ布面積に関係し、1枚当たりいわずとも $10^2 \sim 10^4$ で、単位面積当たりでは同様の結果が得られた。菌の種類では、グラム陽性のほとんどであり、大腸菌群、緑膿菌群は検出されなかった。抽出前後における色差の測定結果からみて、残留物質の除去によりかなり白度の増大したことが判明した。